



西郷南洲翁揮毫

挨拶

理事長 吉永龍暘
会長 吉永龍奏

明けましておめでとうございます。
会員の皆様には、ご家族お揃いで良いお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は会長が体調を崩し、ご迷惑とご心配をお掛けし、申し訳ありませんでした。リハビリを重ねる日々ではございますが、周囲の皆様のお力添えもあり、指導・本番等を再開致しております。

世は未だコロナ禍にありながらも、吟の活動は徐々に開催されるようになって参りました。会員各位にも活躍する場を得ることができ、大変嬉しく思います。

九月、令和四年度の温習会は、生憎の大雨でしたが、天候に左右される事なく、前年よりも多くの皆様方に参加を頂きました。それぞれに日頃の成果を存分に発揮され、和やか且つ充実した一日となりました。

十二月には、米田梢水さんが、ラストサンプラ大会（通称）で、見事な吟詠を披露し、第三位入賞を受賞致しました。その事により、米田さんは、日本コロムビア吟詠音楽会の正会員に選抜され、翌日レコーディングを果たしました。日本コロムビアから全国発売となりますCDが出来上がって参りました。是非お力添え下さいますようお願い致します。前述以外のその他の催しにも、会員として多数ご参加頂き、南洲吟道会の面目を保つ事が出来、改めて感謝申し上げます。

嬉しい事ばかりではなく、終の別れとは誠に寂しいものがございます。十一月十七日、本会相談役・前国分寺南洲吟道会会長・前国分寺吟詠連盟会長としてもご活躍頂きました平松龍宝様が八十七歳にて永眠されました。茂様と共に南洲吟道会を支えて頂き、ご自身のご病氣も克服なさり、献身的に茂様のご看病にも尽くされていたお姿が偲ばれます。只管にご冥福をお祈り申し上げます。

前触れもなく、本会の理事会を終えた三日後、十二月二十五日に、湊山龍牙様が急逝なさいました。平成六年十二月に静風流より転入後、在籍二十八年、八十二歳でいらつしやいました。総伝・師範・宗艦・公認審査員・二冠

Web HP 南洲吟道会.jp

会報 「敬天愛人」第五十七号
発行日 令和五年一月十五日
編集人 南洲吟道会 広報局
発行人 理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏
発行所 〒一六五-〇〇三五 東京都中野区白鷺二三四-五
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会
電話・FAX: 〇三二三三-〇一七〇〇九

吟士権者としてご活躍頂き、琵琶・鶴鳴会でもご活躍なさいました。吟と琵琶での表現のみならず、ナレーションにも長けていらして、各会催事にて司会を務めて下さり、お馴染みのお声の方も多いかと思います。平松龍宝様様に、私共、公私共にお世話になっており、耐え難い悲しみです。
会員の皆様には今後ともご自愛頂き、益々のご活躍と、会員増強に繋がります様、ご協力を宜しくお願い致します。今年も、皆様の幸多かれとお祈り申し上げます。良い年で有りますことを願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和五年行事予定

◆令和五年新春賀詞交歓会

日時 令和五年一月七日（土） 会場 日本吟道会館ホール

◆第五十八回日本吟道青少年全国大会&壮心の集い

日時 令和五年三月二十八日（火）午前十時
会場 すみだトリフォニー・小ホール

◆日本吟道全国大会

出吟者 猪浦雅龍氏東京代表に選出され出吟 足立英洲・菊田龍瑞

◆日本吟道全国大会

日時 令和五年五月十三日（土）午前九時四十五分〜午後四時
会場 秋田芸術劇場ミルハス 吟行研修会 五月十二日・十四日

◆第十八回薩摩琵琶 鶴鳴の会（おさらい会）

主催 薩摩琵琶鶴田流鶴鳴の会 会場 なかの芸能小劇場

◆令和五年度南洲吟道会夏季吟道温習会

日時 令和五年六月二十日（火）午後一時開演

◆日本吟道夏季大学

日時 令和五年七月四日（火）時間未定 会場 野方区民ホール

◆全国吟詠コンクール決選大会 & 日本吟道名吟大会

会場 江戸川区総合文化センター 会場 川口総合文化センター

◆全国吟詠コンクール決選大会 & 日本吟道名吟大会

日時 令和五年十月十二日（木） 会場 川口総合文化センター

◆第四回 琵琶の會 時分の花 吉永龍奏

日時 令和五年十二月十七日（日）午後二時三〇分開場・三時開演
会場 東京青山鉄仙会能楽研修所能舞台

訃報

平松玉枝（龍宝）様

去る令和四年十一月十七日（木）、平松玉枝（龍宝）様が八十七歳にて永眠されました。葬儀は、喪主・平松賢二様（故人の二男）、通夜・十一月二十三日（水）、告別式・十一月二十四日（木）、国分寺市の東福寺むさしの斎場にて取り行われました。故人は本会相談役、本会前国分寺会会長、国分寺市吟詠剣詩舞連盟前会長として吟道の振興に多大な貢献をされました。ここに生前のご活躍を讃え、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



平松玉枝様 ご遺影



南洲吟道会一同による弔吟 通夜にて

ありがとう、平松さん

故湊山冴子様が生前に書かれました。

「今、病院から電話してるの。どこも痛くも痒くも無いのに、何で入院なのかしら？」と平松さんから、いつもより低い声でつまらなそうに電話を頂いたのは十月の終わり頃だったでしょうか。「会いたいわね、ちゃんと食べてね。」と言いながら、納得出来る返事が出来ないまま、受話器を置いたのが平松さんと私の最後の会話となりました。その時の様子が気がかりで体調を聞きたくて、南洲吟道会のことなどの近況を伝え、「兎に角、元気でいてね。」と結んで葉書を送りましたが、それには応答が無く、十一月十七日に訃報が届き、無言のお別れとなりました。

平松さんとお会いしたのは、多分、龍陽第一教場に入ってこられた時からだったと思います。何年前のことになるでしょうか。すぐ仲良くなりました。真面目で詩吟に一生懸命な人でした。吟道学院で開催される行事はいつも一緒でした。全国大会には必ず参加し、地方での開催は山ほどの思い出があります。特に中国での大会は、感動と笑いの絶えない素晴らしい旅となりました。洲神先生、龍陽先生を中心に、旅順からのスタートだったと思います。日露戦争最大の激戦がくり広げられた地で、「爾靈山」を合吟し、ひとしお思い出が深いものとなりました。次は、鉄の塊のような大きな列車で上海へ。車中では外国の人々と共に、歌ったり、踊ったり、楽しくにぎやかな道中となりました。大会は馬鞍山で開催され、

子供達の旗を振つての出迎えは嬉しく、また平松さんの歓声と中国の皆さんと共に吟じ合った喜びは大変感動したことの一つです。子どもたちの旗振りに見送られて、次はパトカーの先導を受けて李白の墓参へ。大きなお椀を伏せたような立派なお墓に手を合わせ、忙しい旅は揚子江へと進みます。水は淀んで船はゆったりと上り・下りしながら、李白作『天門山を望む』を合吟し、胸の熱くなる思いがしました。吟道学院一行の旅は有意義であり、参加した皆さんの笑顔は今もしっかりと思い浮かびます。

平松さん、詩吟と共に沢山良い旅をしましたね。「詩吟を続けて来て本当に良かった。」といつも言い合って頑張っていた平松さんの声が今も聞こえます。そちらでも吟じ続けて下さい。そして寂しいけれど、沢山の笑顔と優しさをありがとうございました。



平成 23 年師範会 稽古初めにて

ありがとうございました

国分寺会 早乙女恵龍

私と先生との出会いは、習字教室で一緒した時です。

その後、先生は詩吟を始められました。数年後には「詩吟の教室を開くので、遊びがてらに来てね」と誘われ、友達三人で伺いました。友達の二人は、即座に入会しましたが、私は躊躇しました。「お茶飲みぐらいだったらいんじゃないの。」との誘いに乗り、結局、入会することになりましたが。

私は音の高低が取れず、リズム感も全くありません。このような私を、先生は一生懸命に詩文の読み、6・7の回し、ゆり落し等を五線譜に書き、目でわかるようにして、懇切丁寧に、嫌な顔をせず、繰り返し、教えて下さいました。なか／＼思うように出来ず、本当に私には手こずったと思います。多少なりとも詩吟らしくなった時には、先生は涙を流し、喜んで下さいました。先生に教えていたのだいた「背筋を伸ばし、胸を張り、お腹より声を出し、助詞はちよつと間を置き、余韻で気持ちを表現する。」を念頭に、下手でも良いから一生懸命に吟ずることを心掛けて行きたいと思います。

曲がりなりにも吟じる様になり、これから頑張って行こうと思っていた矢先、訃報に接し、残念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。感謝だけです。

去る令和四年十二月二十五日（日）、湊山冴子（龍冴）様が八十二歳にて急逝されました。葬儀は、喪主・湊山修様（故人の長男）、告別式・十二月三十日（金）、練馬区の江古田斎場にて取り行われました。故人は日本吟道二冠吟士権者、本会理事・事業局長として吟道の振興に多大な貢献をされました。また薩摩琵琶も良くされました。ここに生前のご活躍を讃え、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



湊山冴子様 ご遺影



弔吟 理事長・会長・南洲吟道会一同
湊山さん愛用の琵琶「雅友」とともに

最後のメール「世の中には色々なことをなさる人がいるのですね。楽しい事はない事です。またさか・・・（何が言いたかったのかな？）して下さい。ありがとう。」又来世で会えますかね。名残りは尽きません。本当に互いに良き人生だったと思いたいです。良きご縁をありがとう。

湊山冴子さんを偲んで

鷲宮教場 大塚龍優

十二月二十五日、息子様からの連絡で訃報を知りました。合掌。思えば冴子さんとの出会いは、吟道学院の中国吟行会でした。何十年前のこと、ホテルに二人一組で同室になった時です。詩吟を始めたの新しい私、どなたでも一緒できましたらと思つて参加しました。最初の夜は「宜しく・・・」の挨拶もそこ／＼に「朝起こしてネ。」と、彼女はさつさとベッドに入ってしまった。買った物などは別行動でしたが、そこは女性同士、すぐに打ち解けました。ホテルに着くと素敵なチャイナドレス、糸、針、鉋が目の前にありました。ドレスを着るなり、このダーツは取り外し、ここは縫込み・・・と自分の体型に補正。夜の集會に出て「今日買ったドレスです。」とお披露目。全員の拍手を浴び、満面の笑み。なんて器用な方なのかしら、凄いとつたものです。

冴子様
あなたの様に素敵なお手紙は書けません、私の言葉を綴らせて下さい。本当に良きご縁で、あなたの友達として、食事をしたり、旅行に行ったり、他にも色々なことを一緒に出来て、今、私は改めて幸せだったと思います。コロナ禍の影響で淋しい思いをした月日もありましたが、それも落ち着いて来て、少しずつ楽しみを広げていこうと思つた矢先の訃報に言葉もありません。

副会長 菊田龍瑞

あなたは私にとつても素敵な存在でした。何かと気配りして下さつて本当にありがとう。あなたはいつも言つていました。「自分の力を100として、80%頑張つて、後の20%は自分の為に自由に使うのよ。」あなたに教えてもらい乍らも、なか／＼実践出来ずに、疲れた顔色をしている私を見て「本当に倒れてからでない」と菊田さんは分からないのだから・・・と言つて、いつも温かく見守つてくれました。もう会えないのです。本当にいつも／＼ありがとう。一時、元気が無く、食も細り、心配していた時期を脱して、最近、元気が出て来たと思ひ、私はほつとしていました。いづれ行く道とは言ふものの残念でなりません。何かあれば相談出来る人として、そこにいてくれたあなた。これからは残つて居る皆様と共に頑張つてみます。心からのご冥福を祈ります。安らかに眠り下さい。



大会後の懇親会にて

彼女とはお手紙の交流も思い出です。文章はご立派、字も綺麗、はがきにピタツと収まります。司会、ナレーションの上手さ等々、枚挙に暇がありません。でもこんな可愛い面もお持ちです。先日、池袋線を走っている座席が黄色の電車に乗りたいたいと言われ、鷲ノ宮の駅員さんに調べて頂くと「ラビュー」と云う電車と解り、お礼を言つて帰りがけに「どなたが乗りたいのですか。」と問われ「八十歳を超えた姉です。」と答えると「へえー。」と返り、大笑いになりました。後日、無事に乗車出来、ご満足の様子でした。互いに八十歳に入り、筋力、視力、聴力も衰え、互いに乗り越えましよう、いつも声を掛け合つて参りましたのに残念です。沢山の楽しい時間を作つて下さつたことに感謝しありません。時々夢でお逢い致しますよう。

新入会員の紹介

齋藤和子様が船橋教場に令和四年十一月一日入会されました。

令和四年後期行事等報告

◆令和四年度東京地区連合会 創立五周年記念吟詠フェスティバル

主催 公益社団法人日本吟道学院東京地区連合会

日時 令和四年九月十七日(土) 午前九時五十分開会

会場 江戸川区小松川区民館ホール

出演者 独吟 菊田龍瑞・山田龍瓊・赤池龍徳・野澤純城・猪浦雅龍・永田龍游・吉永龍暘 (敬称略)

合吟 歌謡吟詠「故郷」全員

独吟・連吟・歌謡入り吟詠・民謡入り吟詠・日舞・フラダンス等、バラエティーに富み、楽しいひと時でした。大勢の方々に、お声かけをすればよかったと反省致しました。(湊山さん製作の当会揃いの水色ブラウス着装) (龍暘)

令和四年残暑の一日

九月十七日(土)、東京地区連合会創立五周年記念吟詠フェスティバルが、小松川区民館ホールで開催されました。

朝から良く晴れ上がり、暑い日でしたが、早くから参集した吟友達で会場内の熱気の方が上まわりました。昭和世代には懐かしい歌謡・民謡などに漢詩を組み込んだポケット詩集を活用し、各会工夫を凝らしての出場で、台詞入り『名月赤城山』では可愛らしい女性の声で「親分！」と掛け声が入ると、会場も沸くという風で大いに盛り上がりました。

昼食は猪浦雅龍氏のお世話で、ゆつくりと特等席で頂くことが出来ました。有難うございました。更に豪華記念品まで配られ、びっくり!!です。

午後からは華麗な日本舞踊・優雅なフラダンスのソロ・群舞まで堪能させて頂き、弛まず吟道に励む仲間達で作りに上げる力の魅力を感じた一日でした。

大取りは龍暘先生の和歌『心なき』です。皆様良くご存じの名吟に会場内は息



歌謡吟詠「故郷」合吟 吟詠フェスティバル

龍暘会 永田龍游

◆令和四年度南洲吟道会秋季吟道温習会

主催 公益社団法人日本吟道学院南洲吟道会 会場 野方区民館ホール

日時 九月二十四日(土) 午後二時開演

出演者(敬称略)(プログラム順)

| | | | |
|------|------|------|------|
| 吉永龍暘 | 長島勝洲 | 澤口三洲 | 新妻眞水 |
| 安齊治水 | 米田梢水 | 春山美水 | 野澤純城 |
| 岩田幸祥 | 佐藤千祥 | 杉本陽祥 | 大塚厚厚 |
| 米田暘梢 | 茂呂真龍 | 手塚憲龍 | 笠木照龍 |
| 小室慶龍 | 戸田進龍 | 吉沢麗龍 | 齊藤優龍 |
| 山田龍瓊 | 曾根龍富 | 稲葉龍誠 | 大塚龍優 |
| 永田龍游 | 赤池龍徳 | 湊山龍牙 | 安永龍珀 |
| 萩野進龍 | 猪浦雅龍 | 加藤龍孝 | 菊田龍瑞 |
| 児玉龍智 | 長友龍瑤 | 吉永龍奏 | |
| 欠席者 | 秋山政洲 | 吉沢強祥 | 藤田龍幸 |
| 西谷龍邦 | 川瀬龍慧 | 岩井龍綯 | |

南洲吟道会秋季吟道温習会を終えて

事業局 戸田進龍

去る九月二十四日(土)、野方区民館ホールに於いて、温習会が開催されました。湊山龍牙実行委員長の開会の辞に始まり、手塚憲龍副会長の先導で国歌を、猪浦雅龍副会長の先導で「吟道精神」を斉唱後、西郷南洲翁遺訓「敬天愛人」を、亡き吉永洲神先生のCD音声に合わせ、菊田龍瑞副会長先導の下、全員で吟じました。在りし日の洲神先生の力強い吟声に接し、暫し、深い感慨に耽りました。続いて吉永龍奏会長からご挨拶を頂きました。

会長は今年二月末、突然の病に見舞われ、半年余りの療養を経ての再開でしたので、如何かと心配しておりましたが、気丈なお振舞いに安堵いたしました。続いて、吉永龍暘理事長が短歌

すら忘れたかのように静まり、聴き入り、最高のラストを迎えました。そして村松龍江先生のユーモア溢れる音頭で万才三唱。皆笑顔で再会を約し、又ひとつ思い出を重ねて夫々、家路に着きました。次回は是非あなたも参加なさいませんか。



令和4年度南洲吟道会温習会 参加者一同

「親思う」で見事な範を示された後、会員吟詠が始まりました。出演された皆様には、練習環境もままならないコロナ禍にも関わらず、舞台で一所懸命に吟じられている姿に感動を覚えました。「吟詠フェスティバル」、「薩摩琵琶」、「詩舞・居合・剣舞」の各イベントコーナーでは、夫々の芸域の一流に触れ、只々聴き惚れ、見惚れるばかりでありました。終盤の「指導者吟詠」では、当会を代表する皆様の名吟を披露頂き、大いなる刺激を頂きました。フィナーレは、吉永龍奏会長による昭和天皇御製「くのために」の吟詠、その感動の余韻に浸りながら、温習会の幕は閉じられました。

実行役員を始め、会員の皆様のご尽力により、コロナ禍の温習会が無事に開催できましたこと、一会員として心より嬉しく思っております。これからも、詩吟を通じて「大きな声」、「仲間との交流」が心身の健康に資することを信じて、「吟じて延ばそう健康寿命」をモットーに頑張ります。

◆日本吟道全国吟詠コンクール決選大会&日本吟道名吟会大会

主催 公益社団法人日本吟道学院 会場 タワーホール船堀
日時 令和四年十月十二日（水）午前十一時開会

出吟者 六段以下 中川晋洲・米田梢水 奥伝以上 山田龍瓊・茂呂真龍
応援者 吉永龍賜 吉永龍奏 菊田龍瑞 児玉龍智 赤池龍徳 稲葉龍誠 猪浦雅龍 西谷龍邦 大塚龍優 手塚憲龍 長友龍瑤 藤田龍香（敬称略）
また、令和三年度日本吟道全国吟詠コンクール決選大会に於いて茂呂真龍さんは壮心吟士権者を受賞されました。会報に記載漏れてしまい申し訳ありません。お詫びを申し上げ追記させていただきます。おめでとーございました。（龍賜）

◆令和四年本会秋季昇段審査会 指導局

日時 令和四年十月十六日（日）午後二時開催
会場 白鷺高齢者会館

審査結果発表（敬称略）

初段 中村真吟 三段 足立英洲
三段 長島勝洲 四段 澤口三洲
五段 新妻眞水 六段 安齊治水
六段 米田梢水 奥伝 大滝和城
七段 高木里城 八段 春山美城
皆伝 野澤純祥 総伝 齊藤龍優
以上の方々が合格されました。ご活躍を



審査会受審者・関係者、一堂に会して

お祈り申し上げます。

審査当日都合により欠席の場合は、従前通り、事前にテープ録音して理事長へ提出して下さい。スマホ審査も受け付けます

◆千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭 会長奉誦

令和四年十月十八日千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭において秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、昭和天皇御製「くのために」を（筆策・稲葉明徳先生）奉誦を致しました。この様子はYouTube『吉永典子チャンネル』に投稿されており、南洲吟道会HPの龍奏コーナーでも視聴できます。（撮影・編集・投稿、三田教場・中川晋洲さん）病床、先の見えない中で活力と成ったようです。誠に恐縮ですが、是非ご覧いただき、拡散等のお願いを申し上げます。（龍賜）



奉誦に臨む吉永会長と稲葉先生

◆令和四年度南関東地区（神奈川、山梨を除く）指導者育成推進講習会

日時 令和四年十一月二十三日（水）午後一時より 会場 小松川区民館
出席者（敬称略）吉永龍賜 菊田龍瑞 猪浦雅龍 長友龍瑤 児玉龍智 加藤龍孝 永田龍游 山田龍瓊 曾根龍富 齊藤龍優 萩野進龍 安齊治水 米田梢水

◆第五八回全国名流吟詠大会、日本コロムビア全国吟詠コンクール決選大会

日時 令和四年十二月四日（日）午前九時開演 会場 中野サンプラザホール
主催 日本コロムビア全国吟詠コンクール・日本コロムビア全国名流吟詠大会実行委員会 後援 日本コロムビア株式会社

第二部（青年の部）米田こず絵（梢水）さんは第三位に入賞、レコーディングを獲得し、六日「春日山懐古」吹込みしました。



米田こず絵さん

全国名流吟詠大会 華麗なる吟と舞

吉永典子（龍奏） 「鶴寿の舞」出演

応援者（敬称略） 吉永龍暘 児玉龍智 藤田龍香 茂呂真龍 秋山政洲 中川晋洲
米田母上様・ご親戚様 伊藤奏嘯 他典子友人様

毎年、中野サンプラザで開催されていた日本コロムビア全国大会は、中野サンプラザが解体される為、昨年在最後の舞台となりました。米田さんの第三位入賞、典子もトリ前の大役をつとめあげる事が出来ました。長年にわたり毎年応援下さいました方々へも御礼申し上げます。（龍暘）

◆第三回 琵琶の會 時分の花 吉永鶴奏

日時 令和四年十二月十八日（日）午後二時十五分開場 午後三時開演

会場 東京青山鉄仙会能楽研修所能舞台

曲目 〈琵琶〉春の宴・義経 〈吟詠〉静夜思・天の原・ふりさけみれば他大勢の会員の皆様方から応援をいただき感謝申し上げます。

◆南洲吟道会理事会

日時 令和四年十二月二十二日（木）午後六時より 白鷺高齢者会館

議題 令和五年温習会・会員増強・敬天愛人・その他について

教場だより

地域活動に参加して 習志野会 吉沢まさの

地域活動行事の一環として、習志野市谷津公民館に於いて、十月二十一日〜三日間、文化祭が行われました。各部の方々の元気と若さを背に感じながら、詩吟習志野会も一丸となって稽古に励み、二十一日の詩吟の部の本番には、市の規則に依り、マスク着用で参加しました。会員の一人の橋本久夫さん（九十二才）は、高齢者であります。サポーター役の同じ仲間の笠木照義さんと共に、堂々とマイクの前で吟じましたが、思う様に声が届きませんでした。長年培われた詩吟への愛着心、心意気に、場内から大きな拍手を頂き、私も高齢者の一人として感動を受けました。同志としての喜びでした。芸



谷津公民館文化祭にて

の中でも、詩吟は奥深さを感じますが、吟ずる事が、人の心の癒しを与えてくれる魅力は大です。

習志野会の皆さんも個々に挑戦し得た成果に共々に喜びあい、讚えあい、又、来年も元気で参加できる事への願いを込めて、パンザイでした。

習志野会の皆さんは人への思いやりが溢れ、心暖かい仲間です。有難うございました。地域活動の一環に参加させて頂きまして、私の思ったこと、感じた事を綴らせて頂きました。

会員だより

奉納「靖国神社」

児玉教場 児玉龍智

令和四年十月十七日から二十日までの四日間、千代田区九段北にある靖国神社にて秋の例大祭が開催されました。コロナ禍にて数年間、取りやめになっていた奉納芸能が復活し、十七日、十八日の二日間は能楽堂にて古武道、居合道、剣舞術、詩吟、剣詩舞、仕舞、講談、琵琶楽、日本舞踊、津軽三味線、合唱と多くの団体の皆様の参加により、祖国の為に尊い生命を捧げられた「二百四十六万六千人余」もの英霊の御霊を奉慰致しました。私は「富嶽」を奉納させて頂きました。

靖国神社の能楽堂は、私の詩吟人生の初舞台の場所でもあります。学生時代に吟道部へ入部し、詩吟は故加納晃神先生、そして詩舞は藤貴鳳扇先生にご指導頂きました。そんな縁から藤貴先生よりOBにお声を掛けて頂き、OB仲間と一緒に秋季例大祭の奉納をさせて頂きました。

昭和六十年に南洲吟道会に入会させて頂き、私の詩吟人生は五十数年となりました。龍暘先生にご指導を賜り、長い年月、吟道に精進してまいりましたが、満足な吟は一度もありません。いつも初心の気持ちです。靖国神社の奉納吟は、英霊の皆様の御霊を心からお慰めする心持ちで吟じました。「心で吟ずる」、残りの詩吟人生は、そんな気持ちで精進したいと思えます。



学生時代のお仲間と靖国神社にて

詩吟と私

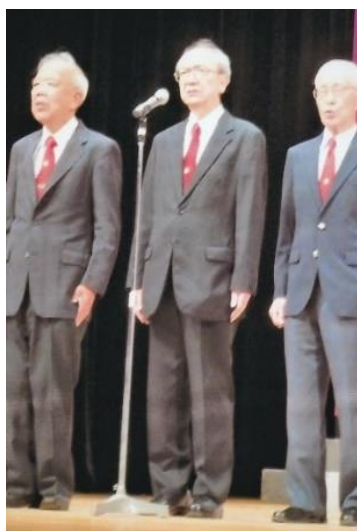
国分寺会 吉沢強祥

私は、団塊の世代に生まれ、間もなく後期高齢者の一員になります。昔、通学した小・中・高校、大学の校舎、四十数年勤務した会社の本店は全て移転し、世の無常を感じます。そうした中で漢詩、和歌等は数百年、数千年の間、人々の心に永遠として残る、正に最高の文化財の一つと思います。

詩吟については、小学生の頃、見に行った白虎隊の映画の中で、少年達が飯盛山で切腹する場面で、霧島昇が歌い、詩吟が演じられたという記憶があります。六十歳頃まで詩吟には無縁でした。手塚憲龍氏からの案内で、国分寺会の猪浦雅龍先生の教場に入会致しました。先生や先輩の皆様の吟を録音し、反復練習をしているうちに段々と詩吟の魅力を感じてきました。コロナ禍以前は、普段出せない大声を張り上げ、身体感覚が研ぎ澄まされる感じが良いと思えました。また、詩文の背景を通して歴史をより深く学べる魅力があります。複式呼吸を意識する事で、身体機能を高める事もありません。国分寺会の皆さんは、二年配の方もおりますが、地域社会の奉仕活動をしたり、俳句、短歌、漢詩、絵画等の創作活動に熱心にされている方ばかりです。単なる酒飲みの私には良い刺激材料になっています。

昨年、大学の先輩でもある平松龍庚氏が亡くなり、先日は奥様の龍宝先生が永眠されました。毎回、懇切丁寧なご指導を頂きました。私の努力不足で詩吟が上達しないのが心残りです。龍宝先生に感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

近い将来、コロナ禍がおさまり、「晴空ミサイル」から、秋思の「晴空一鶴」の世の中になる事を祈念致します。



令和四年全国大会にて

詩吟の思ひ出

国分寺会 岩田幸祥

私の故郷は新潟県の長岡で冬は雪がよく降ります。歌や詩吟が好きだった父は晩酌をし乍ら、歌ったり、詩吟を吟じておりました。そんな影響もあって、詩吟教室を紹介され、行きました所が恋ヶ窪公民館でした。数年後、平松龍宝先生の教室に通いました。人前で歌うことなどできなかった私が、詩吟ができるまでになったのは、何度も丁寧に教えて頂いたお陰です。詩吟の詩文は、日本、中国の古典からとられ、より深く歴史、文化を知ることができ、とてもためになります。平松先生が先日お亡くなりになり、とても悲しく残念です。これからは、猪浦雅龍先生御指導のもと、一步一步吟道に精進してまいります。

晩酌をしつつ詩吟を吟じをりし 父の姿の浮かびくるなり
先生のを偲んで 習いし日々をなつかしみをり

故平松龍宝先生を偲んで、短歌五首を捧ぐ

国分寺会 佐藤千祥

会いたくも面会ならずメールのみ 恩師に会えしは永遠の人なりて
密やかに恩師は逝けり黄泉の国 木の葉静かに散り行くごとし
生前に師は形見にと附け下げを 胸中想いて哀愁切々
秋の日や恩師逝きたりうら悲し 世は無常なり吾もいつか逝く
吟指導受けし師の逝き悲しけれ 吾の短歌にもいつもエールを
※附け下げ 着物のこと

編集後記

皆様良き新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年を表す漢字は「戦」でした。残念乍ら本年もウィズコロナの幕開けとなり、私達はコロナとの戦いです。昨年末には平松龍宝先生、湊山龍河先生が相次いで他界されました。お二人は南洲吟道会の重鎮であり、本会の発展に多大の貢献をされました。ここに生前のご功績を讃え、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。五月には秋田での全国大会、七月には本会の温習会、大事なイベントに向けて感染防止策を講じ乍ら、今後の明るい希望の訪れを信じて精進して行きましょう。卯年に因んで本会が一段と飛躍する年であってほしいと願っています。本号は追悼記事の関係もあり、国分寺会の投稿が多くなりました。次号は各教場の皆様のご意見、ご投稿をお待ちしております。

少しづつ日脚が延びて来ましたが、まだまだ寒い日が続きます。お身体にはくれぐれもお気をつけてお過ごし下さい。(広報局)

| | | | |
|------|------|------|------|
| 広報局長 | 手塚憲龍 | 記録部長 | 稲葉龍誠 |
| 広報部長 | 萩野進龍 | 編集部長 | 佐藤千祥 |
| HP担当 | 菊地務 | | |